

4月オレンジ第2だよ

令和5年4月1日

入園・進級おめでとう



春の日差しを浴びて、喜びと不安を交差させながら令和5年度の保育活動がスタートいたしました。保育園は楽しいところ、お友達や先生と一緒に沢山の「やりたい・やってみたい」と体験や冒険を見つけ、さらに、自分の生活に必要な身の回りの事も「自分でできるようになる」そんな乳児期から幼児期への成長の過程を、丁寧に見守り優しく援助していく事が「私たちの保育」です。

保護者の皆様と、子育ての思いを、互いに支え合い、補い合い、語り合っ子ども未来を見据えて「共に育て・共に育ち合い」を願っております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。



令和5年度 職員紹介 (皆で頑張ります)



0歳児 ほし組 (6名) とうばる もとこ みやぎ かなこ	1歳児 にじ組 (14名) いちなり なつみ たまき あやの ひらお まさと	2歳児 そら組 (18名) やなぎさわ ふみえ やすむら みゆき とよひら ももこ	3歳児 うみ組 (12名) たまき あさみ
1階 フリー いけみやぎ ゆうこ	2階 フリー おおみね かなえ		
全体 フリー うね みほ			
園長 みやざと みよこ	主任保育士 ながみね あみ		
調理 いらみな しげみ	調理 あかみね なつこ	用務 みねおか みゆき	事務 なかやまじゅんこ

毎月の定期的に行われる行事の説明

誕生日会について

個々の誕生日に合わせて、クラスで「おめでとう」と祝います。人数が少ないことも有り、2ヶ月に1回奇数月に全体集会でお誕生会を設けて、お楽しみ会を行います。



身体測定、ベビーマッサージ

大きくなったね、先生と二人だけの時間を持ち、心地よい「わらべ歌」に合わせてベビーマッサージや会話を楽しみます。子どもたちは心地よい思いを心待ちにしてくれます。



生活の日

子どもたちは、生活を通して生活の仕方を覚えます。自分の持ちものの片付け、名前の点検、手を洗い爪が伸びてないかを確認し、困った事はないかを見つけながら一緒に生活の日を行います。

4月の行事予定



1日(土) 新入園児入園慣れ体験

各クラス親子で遊び、1日の流れを説明

15日(土) 春の親子遠足・第3土/午後家庭保育

奥武山・弓道館建物後ろ広場にて・9時集合

職員紹介・各クラスでのコミュニケーション

10時半~11時解散 後自由散策 お弁当は自由

17日(月) こいのぼり掲揚

19日(火) 避難訓練・避難経路確認・避難ベル

を聞いて、先生のお話を聞く

20日(水) 発育測定

毎月・保育士と子ども一人一人が自分だけの時間を

共有しベビーマッサージを保育士にしてもらう

21日(木) 生活の日

自分の持ち物名前の確認、爪はのびてないか

頭は、体の傷などは、保育士と一緒に点検

29日(土) 昭和の日公休日



育児豆知識

社会福祉法人オレンジ会の保育目標

(私たちが大切にしている保育)

①健康で心豊かな子・・・目標実現に向かったの方針

子どもの大切な命を預かり安全・安心な居心地の良さを心がけ、子どもの人権を尊重し、心身の成長を支援し、人との関わりを大切にしながら、生活のリズムを整え、伸び伸びと育てる。

信頼関係を土台として、保護者・子ども・職員が常に連携し合っ子どもの成長を共に育て・共に育ち合える関係を構築する

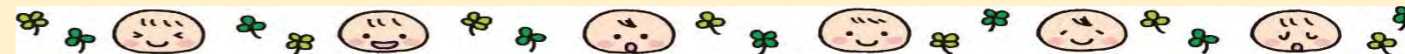
②自分から行動できる子・・・目標実現に向かったの方針

指示・命令・禁止の大人主導ではなく、常に子ども自ら考えて行動できるように、善悪の判断や考が誘発できるような声掛けを基本とし、子ども自ら育つ力を引き出し主体的に活動ができるようにする。

そのためには、環境を整え遊びが選択でき、好奇心が持てる・遊具・教材を用意提供し、ヒントを提案しながら子どもの想像や工夫を広げていくようにする

③自己を表現して遊べる子・・・目標実現に向かったの方針

経験や体験を通して未知の世界を獲得していく子どもたちの豊かな感性を育み、音楽リズム・絵本や物語 絵画制作・児童文化財・運動や自然との触れあいを通して興味・関心を広げ、言葉で伝え合い・表現を喜び人に認められることによって自己肯定感や自信に繋げ、人との繋がりを通して、社会性を身につけていく



子どもたちのケガについて

集団に於ける、子どものケガは、防げる場合と、防げない場合があります。

命に関わる大きな事故・それは絶対にあってはなりません。

万一に備え施設賠償保険にも加入、避難訓練・危険箇所点検を厳重に行い、保育の中では保健衛生管理睡眠時チェック・アレルギー食の対応や誤嚥食材の管理は厳重に行っております。

しかし、どうしても防げない、「かみつき・ひっかき」 散歩時の歩行未熟や体のバランスをくずしたときの「転倒・擦り傷」・不意に起こる脱臼・園外活動時の虫刺されなど、保育の中でインシデント・アクシデントとして上がってきます。その時、保育者は「ケガをさせてしまった」「ケガをさせてしまいすみません」という自分を責める気持ちになり、保護者への謝罪のため気持ちが落ち込んでしまいます。

「ケガをさせないで下さい」と怒鳴りつける保護者も中にはいます。

子どもは、ケガや出血・痛みを経験してはじめて自分の身の守り方を学習していきます。

多少のケガは、お互いが子どもたちの成長として捉え、「こんなことしたらケガするね・危ないね」を伝え合える関係として、保護者の皆様にはご理解いただけたらと願っています。

子どもを育てるときに不安なこと・心配なこと沢山あります。その時こそお互いがわかり合い、励まし合っ、気持ちを楽に持ち支え合える関係になりたいと思っています。

